

# トライアングル

発行日／平成 30 (2018) 年 3 月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／中川博  
〒 542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号 大阪府社会福祉会館内  
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

## 高齢化支援を考えて

### 第2三恵園・ゆかりの里訪問

1960年代以降、障がい者を保護する観点から国の施策として、郊外に数多く入所施設を建設、運営をしてきた背景があります。当時、利用者さんとご家族にとって、終の棲家を見つけた喜びや安心感を持ってた事は、障がい者福祉に携わる我々には手に取るようにわかります。ただ、長く施設で生活してきた入居者の方々も高齢化が進んだことは、現在の障がい者支援施設（生活施設）にとって大きな課題です。そこで、支援をどのような形で提供しているのか拝見したいと考え、今回は2施設の見学に行ってきました。

1つ目の施設は、社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団「第2三恵園」（豊能郡勢町大里）です。第2三恵園は定員50名の施設で、50歳以上の方が中心に入居されています。第2三恵園では、施設長の木村勝也氏、理学療法士の山中大樹氏、看護師の松本友江氏よりお話を伺いました。園では、協力医の理学療法士と雇用契約を結び、週に1回リハビリの時間を設定されています。このような形でリハビリが始まって8年が経ち、木村氏は「地域医療機関との結びつきが強いという、郊外にある施設の利点が活かされている」との事でした。

#### 設備の工夫

車椅子を利用する方が多くなり、洗面台の下部を空間にして車椅子のまま使えるようにされていたり、大型車椅子やストレッチャーが乗れるエレベーターの設置に向けての申請と改修工事をしています。入居されている方が安心して生活が送れるように、現場職員の声に耳を傾けて環境整備に力を注いでいます。

#### リハビリの工夫

山中氏から、「週1回のリハビリでは時間に限りがあるが、専門職から見た入居者の身体機能とリハビリの根拠を現場職員に伝える事で、どの職員にでも出来るリハビリを行なっている」との事でした。また、入居者のADL（日常生活動作）と職員の気づきを大切にされており、専門職からの視点を日々の支援や研修会を通して伝えておられます。

#### 医療の工夫

入居者の健康や通院時の対応について、松本氏よりお話を伺いました。高齢化に伴い疾患や怪我が増えてきており、特に誤嚥性肺炎や骨折が多く、泌尿器疾患の方も増加傾向です。また、救急搬送も多くなっているとの事でした。

#### 第2三恵園では現在、4名の看護師がおり松本氏は

「少しでも入居者に変化があれば、すぐに医療機関に繋げる事を心掛けている」との事でした。通院や緊急を要する際にすぐに対応が出来るように、「年齢」「既往歴」「服薬状況」などが記載されている個人ファイルの作成と施設全体としての情報共有を心がけています。



第2三恵園リハビリ設備（右）とリハビリ室

#### 高齢化支援を考えて

第2三恵園・ゆかりの里訪問	1
高齢知的障害者支援の課題について	2
●ぶらり施設訪問記●	
障がい児通所施設 障がい児者余暇生活支援センターじらふ	3

#### ●ちょっとつぶやきリレー●

堺市立第1、第2つぼみ園 児童指導員 鄭 龍明	3
●部会報告●	
地域支援部会	4
●紹介！ユニーク自主製品●	
リープセンターひびき（バカ美味点心）	4

## 食事の工夫

食事に関しては、嚥下機能の低下が顕著に表れている事から、一人ひとりに合わせた食事形態を整え、ゆとりをもって食事が出来るように対応されています。また、月に1度弁当箱を使って食事提供をし、蓋を開ける喜びやワクワク感を感じてもらえる工夫をしています。

\* \* \*

2つ目の施設は、社会福祉法人清光会「ゆかりの里」(泉佐野市大木)です。ゆかりの里は、平均年齢が男性63歳、女性67歳の方々が入所する定員52名の施設です。見学では、支援課課長の市道明宏氏よりお話を伺いました。見学を通して感じた事は、たくさんの方々がおられる生活の場がとても穏やかに時間が経過している印象を受けました。

## 設備の工夫

入居者の高齢化に伴い、転倒をして怪我をするというリスクマネジメントを考えられており、廊下の床はクッション材になっていたり、階段床には凹凸のある床材を使用して滑り止め効果のあるものを使用したりと、必要性の高い所から改修工事をされています。また、大型エレベーターは1階駐車場に降りる事ができ、緊急搬送時にはストレッチャーのまま対応が出来るようになっていきます。市道氏より「施設を建てた時には、想定できる必要な設備や環



ゆかりの里の食事保温庫

境を整えていたが、その時の入居者の状態と今の入居者の状態には違いがあり、施設設備を合わせていくというのには重要課題となっている」との事でした。

## 医療の工夫

敷地内に診療所が設置されていて、地域の医療機関のドクターが嘱託医として配置されています。入居者の体調の変化や怪我などの際、現場職員からの引き継ぎに迅速に対応が出来るよう連携を図っているとの事でした。また、敷地内には歯科設備もあり、1週間に1回定期診療という形で歯科医が配置され、実際に治療や処置を行なっておられます。

## 余暇の工夫

以前は、入居者全員で旅行にも行っていたようですが、高齢化が進んだ現在は少人数グループ体制の旅行を企画したり、長時間の旅行が難しい入居者には出張

シェフを活用し、普段とは違った料理で味覚や視覚など五感の刺激提供をされています。食べる事への楽しみを持っている入居者が多く、とても喜ばれているとの事でした。

今回の取材を通じて印象深い事は、ADL(日常生活動作)の意味合いを入居者や職員に伝える事で意識改革を行ない、自身で出来る事の本来の意味に喜びや自信を裏付けとした支援が大切であるという事です。

また、現場職員と栄養士や看護師などの専門職が連携して施設全体で支援をしていく事で、入居者が安心して生活出来るのだと感じました。

最後に、後見人の申請や、保護者が亡くなった後、どのような対応が必要になるのか、高齢化を考える際に忘れてはいけない視点だと感じた施設見学となりました。(隆光学園 吉村周一/さつき園 吉岡裕幸)

## ● 高齢知的障害者支援の課題について ●

高齢知的障害者支援について、65歳からの介護サービス優先や、昨今のわがことまるごとの政策など現状に照らしてみても、職員自身が、何を大切にすべきかを考えていかなければならないと思います。

平成30年から、一部介護サービスと障害サービスの相互乗り入れができるようになります。そのこと自体は、柔軟な対応が期待できるものだと思います。

しかしながら、障がい特性や社会経験等の違いを無視し、一般的な高齢者と同じに考えることに違和感があるのも事実です。

あくまで個人状況を考え、必要なサービスが提供されるのであれば、サービスの充実とは言えません。

不安なく人生のエンディングまでの生活保障がされたうえでの選択肢として、介護・障害サービスの制度設計がされることを望みます。

また、8050問題の指摘がありますが、障がいをもった方々の生活にこそ大きな課題として露呈してきていると感じます。

家族ユニットで生活を成り立たせてこられた家庭での両親の高齢化によるユニット崩壊、親子共に介護・支援の緊急必要案件の増加が気になります。

支援施設においても、キーパーソンの高齢化による医療同意・緊急時対応者の不在も危機感を感じています。

後見制度の利用も家族が高齢化されると、申請自体が重荷になり、制度の理解のための説明に時間を要するケースなど、高齢期の利用者・家族に対して包括的に職員がサポートする必要性が求められていると思います。

多くの福祉サービスが提供される今、納得いくサービスが継続的に提供され、安心した生活が送れるよう、社会保障制度全般について我々職員が専門性の向上と柔軟な対応が可能となるようにスキルの向上に努めなければならぬと感じるこの頃です。

障害者支援施設部会長 木村 勝也 (第2三恵園)

## 障がい児通所施設

## 障がい児者余暇生活支援センターじらふ



大阪市住吉区帝塚山東5丁目8番3号  
住吉総合福祉センター地階

取材日：平成30年1月11日  
取材者：大和川園 杉扶早子  
かしま障害者センター  
Link 水津 由依

この度、大阪市住吉区にある社会福祉法人ライフサポート協会障がい児通所施設「障がい児者余暇生活支援センターじらふ」を訪ねました。2003年に支援費制度が施行されたことをきっかけに「子どもたちの放課後の場」を作りたいという思いからできた事業所です。今回の取材では、上田治彦施設長にお話を伺いました。

## ■基本理念と大切にしていること

じらふでは、具体的・肯定的・視覚的の3つの柱を中心に支援を行っております。

見学をしていると、文字や絵カードを用いてスケジュールを視覚化したり、コミュニケーションツールとしても活用されていました。また声かけなども、あいまいな表現ではなく、具体的に肯定的な言葉や絵カードなどの提示で関わる姿がとても印象的でした。

曰く「職員と保護者間のコミュニケーション」をこまめにとり、「ご家族の思いやニーズなどの把握に努めるよう心掛けておられました。以前保護者からの相談で、「この子の今後の居場所はどうか」という話をきっかけに、新しい事業の立ち上げをした経験があるほど、保護者や本人に寄り添い、継続した支援の提供を常に考えておられました。

とくに印象に残ったのは、利用者の

方々には「選ぶこと、拒否することを身に付けてほしい」との言葉でした。生活や就労などどのような場面でも、私たちはさまざまな選択をしています。あたり前のようなことですが、生きていくうえで必要不可欠なことであり、とても大切なことを改めて教えていただいたように思います。いつでもどんな時でも、一人一人に合わせた支援を考え、ときにはご家族と一緒に協力することで、より良い支援ができていくのではないかと感じました。

## ■放課後等デイサービスの現状

近年、放課後等デイサービスは急激に増加傾向にあります。世の中に「子どもたちの放課後の場」が必要であることが認識されつつある状況を嬉しく思う反面、適切な支援の提供ができていない事業所があるのも事実であり、在り方が見直されています。「ちゃんとしているところも同じように見られてしまうのは……。」と上田施設長も心のうちを話されていました。上田施設長は、法人業務以外にも大阪府児童発達管理責任者研修ファシリテーターや研修会の企画なども担っておられます。いつか「子ども働きたい職種ランキングトップ20」に入れるように、この仕事の楽しさややりがいを、一人でも多くの方に知ってもらいたいとおっしゃっていました。

ちょっとつぶやき……

堺市立第1、第2つばみ園 児童指導員 鄭龍明

私は、現在、児童発達センター第1、第2つばみ園の児童指導員（心理）として勤めています。担当業務は、地域の保育所・幼稚園・学校等を訪問して支援を行う保育所等訪問支援、発達検査を基に保護者の相談を行う発達相談、地域の保育所等に通いながら週1回センターで療育を受ける並行通園クラスと肢体不自由児保育クラスのフリー保育スタッフと多岐に渡っています。

勤め始めた頃は知的障害児の保育担任と発達相談が担当でしたが、法改正後、児童発達支援センターの役割も広がり、上記のように私の業務も子ども本人から大人（保護者や他機関の支援者・先生）へと支援の重心が置き換わってきています。当然、子ども自身への支援は不可欠です。しかし、大人は子どもの生活や環境を決定します。ですので、保護者や子どもに関わる大人への支援は非常に大切です。

親子関係をみる時、親が安定していると、子どもも安定していることが多いです。子どもが不安定になってもある程度落ち着いて対応できるものです。

助言や方法を教示するだけではなく、障害をどんな風に受けとめているのか、子育てを楽しんでいるか、子どもを含めてどんな人生を歩んでいきたいのかなど、心理学の視点から気持ちを受けとめて保護者自らが整理し、自分らしく前を向いていけるようにすることに支援の重点を置き、試行錯誤する日々です。

障がいや病気、子育ての知識・情報も大切ですが、親や関わる大人が自分の気持ちを見つめ、整理し、子どもの理解を深めたり障がいを受けとめられる器作りをこれからも大切にしていきたいです。

今回は「おおざとの赤いやね」の樹 宣明さんをお願いします



地域支援部会は、共同生活援助（グループホーム）事業に従事されている皆様方で構成されている部会です。

毎年度7月から、奇数月の年5回で定期部会を開催しています。また、不定期ですが施設等見学も企画・実施をしています。

定期部会では、主にグループホーム事業における各事業所の利用者の健康・金銭・服薬などの支援の工夫や、職員の労務管理など様々な業務の在り方、また関係法令の改正等に関する情報や意見交換をおこなっています。

時として支援者の悩みの相談室であったりと、毎回20〜30名ほどの方々に参加して頂いています。

グループホームとは、知的な障がいの方々での生活を援助する事業として、平成元年に制度化されました。当時の利用要件には「就労していること」と記されていましたが、それから30年が経過し、さまざまな変遷のもと今日に至っています。

障がいのある方々の地域での暮らしが、管理的ではなく個別的に、特別ではなく普通であることには変わりなく、安心と安全、そしてひとり一人の自分らしい暮らしの日々を支える（支援）という制度の始まりを忘れることなく、部会を通じて、支援者の横の繋がりを広げ、支援の質の向上に貢献できればと思っています。

より多くの皆様方の参加をお待ちしております。

（地域支援部会長 奥田 雅博）

### ●点心セット（写真）

餃子 20 個（タレ付き）、はるまき 6 本、  
しゅうまい 16 個 2600 円

●ぎょうざ 20 個パック（タレ付き） 680 円

●はるまき 6 本パック 680 円

●しゅうまい 16 個パック 580 円

価格はいずれも通販価格（税・送料込）。贈答用は 80 円〜100 円アップ。通販は <http://www.hibiki-shop.jp/> ひびきSHOP。店頭販売分は東大阪市荒川のパレットひびきで扱っています（月〜金 9:00〜19:00、土 9:00〜15:00）。



紹介！  
ユニーク  
自主製品

リーブセンター  
「バカ美味点心」



2007 年、補助を受けて餃子の皮を巻く機械を購入。挽き肉は、和歌山の畜産農家が大切に育てられている三元豚のものを直接買い付けています。豚の飼料は非遺伝子組み換えで、抗生剤もホルモン剤も使用していません。

その後、はるまきとしゅうまいを追加。フードカッターで野菜を切って挽き肉と混ぜて練り、成型したたねを皮で巻き、販売するまでのほとんどの作業を、利用者さんがされています。

月 38 万〜40 万円（法人内の給食使用分約 16 万円を含む）を売り上げる人気商品ですが、材料の品質が良いため原価率が高いのが悩みです。

### 退任のごあいさつ

このたび私儀 1 月末をもちまして、広報委員長を退任することになりました。短い間ではありましたが、会員施設、協会の役員、広報委員の皆様方からの御協力と温かいご支援をいただきましたこと、心から御礼申し上げます。今後は松嶋新委員長が、ホームページやトライアングルを通して協会活動の情報発信をさらに進められると思います。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。最後に、大阪知的障害者福祉協会の皆様方のご健勝とご発展をお祈りいたします。

（前広報委員長 丸山 攝）

### ソフトボール大会名称募集のおしらせ

行事委員会では、「大阪知的障がい児・者合同ソフトボール大会」の名称を、より身近に感じられるような名称に変更をしたいと考えています。

そこで皆様に名称を募集したいと思います。詳細は事務局にお問い合わせください。締め切りは平成 30 年 3 月 15 日です。